

地域の産業・文化を形づくる 生業景デザインに関する研究

研究内容

衣食住に関わる伝統的生業など、地域の資源や環境を活かして価値を生み出す「地技(じわざ)」を再評価し、個々の動きを結びつけながら発展・継承させ、地域固有の美しい景観醸成につなげることを目標としている。このため、地技を用いた生業がおりなす地域固有の景観を「生業景(なりわいけい)」と名づけ、建築・工芸・民俗・生活学などの観点からそのアーキテクチャ(形成構造や育成手法)を探るとともに、各地の取り組みに対してデザイン協力や実践的研究を進める。地技や生業場の事例を集め、連携・共創の援用ツールとする「とうほく地技カタログ&マップ」をはじめ、地域に根ざした「生業」「景観」の双方を具体的な対象とし、それぞれの調査と統合的な考察を行うとともに、多様なプレイヤーが生業景の醸成に貢献できるしくみを実践的に研究する。



衣食住の地技について語り合うコアトリエ・オープンラボ2019

地域・産学連携の可能性

本研究は、科学技術振興機構・社会技術研究開発センター「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域プロジェクト「農山漁村共同アトリエ群による産業の再構築と多彩な生活景の醸成」(2016-2019, 研究代表者:大沼正寛)における取り組みをもとにして、各地の官・民・産との連携を深めつつ構築してきたものである。特筆すべき観察・実践エリアとして、宮城県丸森町の蚕糸絹業の再生に関する研究(衣)、大崎市岩出山・鳴子地域の湯治場と農業遺産の関係性に関する研究(食)、陸前地方のスレート民家の活用保全に関する研究(住)などがあり、いずれも地域・産学連携を前提として成立する研究である。環境・資源を活かし、開かれた人脈をもとに主業・副業を組合せ、固有性を存続させる地域デザインに資する学・術の統合知をめざしている。



環境と資源と地技を統合把握する衣食住の生業景イメージ

このテーマに関連する
東北SDGs研究実践拠点

地域・地場産業振興研究拠点

このテーマに関連する
プロジェクト研究所

生業景デザイン研究所

このテーマに関連するSDGs開発目標



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 建築設計、地域計画、建築歴史地理

大沼 正寛 ONUMA Masahiro

教授、博士(工学)

URL <https://ru-cas.jp/>



執筆論文

大沼正寛・阿部正「建築士」CPD 講座「陸前地方の天然スレート建築 第11回 屋根下の生業景」ほか(2019 全11回),公益財団法人日本建築士会連合会, pp40-43, 2019



KeyWord

生業景、地技、地域景観、衣食住、工芸、民俗学、農山漁村、地域デザイン